

脱炭素への取り組み

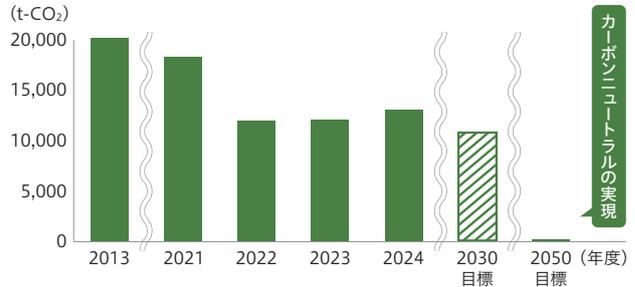
環境の取り組みに関する詳細は Webサイトをご覧ください。



カーボンニュートラル推進体制

当社グループは、生産段階におけるGHG（温室効果ガス）排出量削減に関する基本方針として、2030年度までに2013年度比46%削減、2050年度までに「カーボンニュートラルの実現」を目指すとして定め、その達成に向けて取り組んでいます。GHG排出量削減のために、エネルギー使用量自体を削減する省エネの徹底、再生可能エネルギーの活用拡大、GHGフリーエネルギーの購入の3つの視点で取り組んでいます。

▼ GHG排出量 (Scope1,2) の推移



脱炭素に向けた取り組み

当社グループでは、設備の設計や導入を計画・実施する「生産技術チーム」と、現場での運用を担う「工場管理チーム」の2チーム体制で、製造工程を中心に脱炭素に向けた取り組みを推進しています。

電気を多く使用するホース・チューブ製造では再生可能エネルギーに切り替え、ガスによる蒸気ボイラーを使用するゴム製造ではコージェネレーション設備の効率的な運用によりガス使用量を大幅に削減しました。

また、当社グループ海外子会社での取り組みとして、中国圏の当社グループ5拠点で非化石証書購入により、約3,000t-CO₂の排出を削減することができました。今後も引き続き、国内外のグ

ループ各社で再生可能エネルギーへの切り替えを進め、CO₂排出量のさらなる削減を図ります。

さらに、Scope3で排出量が多い原材料購入での対応としてサプライヤーとの協業を推進しています。大手企業からは新たな環境対策の設備や運用について学ぶ機会を設ける一方、対策が遅れる小規模な企業へはCO₂削減に向けた取り組みをはじめ、管理体制・データの見える化等、具体的な対応策をアドバイスしています。こうした取り組みを通じてサプライチェーン全体での脱炭素をはじめとした環境対策を展開しています。

2050年カーボンニュートラル実現を目指して

今後の課題としてはガスの使用量のさらなる削減が必要です。現在の方法ではガスの使用量を完全にゼロにすることはできないため、他のエネルギーへの転換が必要です。例えば、水素とCO₂からガスの主成分であるメタンを合成する「メタネーション」等、抜本的なエネルギー転換の動向を調査し、随時対応を検討しています。

当社グループでは環境問題に取り組むとともに、SDGsの「つく

る責任、つかう責任」を実践する効率的な製造を目指しています。ロス・不良を出さない無駄のない製造や資源の有効活用等、ものづくり企業としての基本行動「TNS活動（トータルニッタシステム：徹底した無駄の排除による生産性の向上と原価の低減活動）」を社員全員が徹底しています。これらの活動をグループ全社へ展開し、サプライヤーやお客様とも協力しながら、2050年のカーボンニュートラルの実現に向けて取り組んでいきます。

マテリアルフロー

当社の2025年3月期のマテリアルフローは以下の通りとなり、発生する環境負荷を低減するために目標を設定して活動を行っています。

▼ INPUT

項目	内容	数量	単位
原材料投入量	総原材料投入量	9,686	t
	ゴム原材料	1,687	t
	プラスチック類	7,999	t
エネルギー投入量	電力	14,139	MWh
	都市ガス	4,857	千m ³
	重油	37	千L
水投入量	総投入量	199,647	m ³
	上水	85,289	m ³
	井水	114,358	m ³
環境負荷物質	PRTR対象物質	254.9	t

奈良工場
名張工場
高知工場

▼ OUTPUT

項目	内容	数量	単位
CO ₂ 排出量	総排出量	13,122	t-CO ₂
	Scope 1	9,824	t-CO ₂
	Scope 2	3,298	t-CO ₂
排水	総排水量	183,146	m ³
プラスチック廃棄物	総廃棄量	1,128	t
	サーマルリサイクル	619	t
	マテリアリサイクル	284	t
	埋立て	225	t
環境負荷物質	PRTR対象物質排出量	12	t
	PRTR対象物質移動量	23	t